

令和6年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

チアフルデー ～吉備の森感謝でえ～

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

親子で自然体験活動を楽しむことで、親子のふれあいの大切さを感じたり、他の家族との交流を深めたりすることをねらいとする。

子供の健やかな成長に体験がいかに大切かを広く発信し、社会全体で体験活動を推進する機運を高めることを目的とする。

2. 事業の概要

（1）期日

前夜祭：令和6年11月16日（土）～11月17日（日）1泊2日

本祭：令和6年11月17日（日）日帰り

（2）参加者

① 募集対象・人数

前夜祭一般（幼児から大人まで）

本祭50家族（前夜祭家族含む）（250人）

② 参加人数

前夜祭17家族（51人） 本祭31家族（104人）

（3）講師等

都築 照代 氏（絵本専門士）

水野 恵子 氏（絵本専門士）

畑上 昌子 氏（絵本専門士）

日本防災士機構岡山県支部 防災士

国立吉備青少年自然の家 外部研修指導員

（4）企画・運営のポイント

- ① 前夜祭からの参加者には、活動時間に余裕を持たせ、家族同士が交流する時間を取りやすくした。
- ② 災害教育の観点から日本防災士機構岡山県支部にブースを出展していただき、非常食を作って試食してもらい非常食について新たな認識をしてもらえるようにした。
- ③ 不審者対応として参加者であることが一目で分かるようにリストバンドを配付した。
- ④ 岡山県内の様々な団体との連携を図った。

3. 活動の内容等

(1) 日程

11月16日(土) 前夜祭	
16:00	受付(玄関)
16:30	開会行事
16:45	アイスブレイク
17:15	夕べのつどい
17:30	夕食(レストラン)
18:30	休憩
19:00	絵本読み聞かせ(ふれあいホール)
20:00	入浴(生活関連棟)
22:00	就寝(宿泊室)
11月17日(日) チアフルデー	
6:30	起床・洗面・清掃・荷物移動(宿泊室)
7:15	朝のつどい
7:30	朝食(レストラン)
8:30	ここまでが前夜祭
9:00	受付
9:30	チアフルデー
	① カッター活動(鳴滝湖)
	② 樹木ビンゴ(所内)
	③ 授乳室+ちびっ子ルーム(学習室1)
	④ フィールドアスレチック(ウーリーのぼうけんひろば)
	⑤ おもしろ自転車(つどいの広場)
	⑥ ポニー(馬)乗馬体験(下の広場)
	⑦ キャンドルづくり(学習室2)
	⑧ 親子で遊ぼう(学習室3)
	⑨ 非常食屋台村(チャレンジルーム)
	⑩ レザークラフトを作ろう(多目的ホール)
	⑪ カプラ&ペタンク(プレイホール)
	⑫ 絵本広場(グリーンルーム・ふれあいホール)
	⑬ 遊びリンピック(プレイホール)
	⑭ そとチャレラリーに挑戦(受付:玄関)
	⑮ キッチンカー(中広場)
15:00	終了・解散

(2) 活動の状況



【開会式】



【前夜祭・絵本読み聞かせ(工作)①】



【前夜祭・絵本読み聞かせ(工作)②】



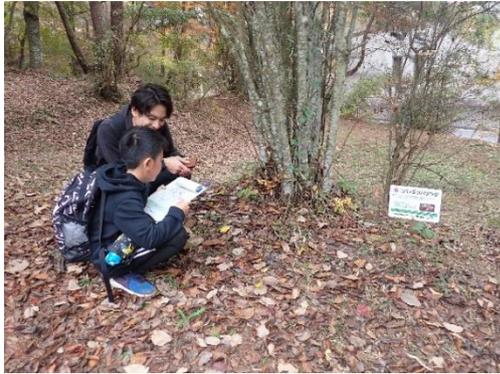
【乗馬体験】



【キャンドルづくり】



【レザークラフト】



【樹木ビンゴ①】



【樹木ビンゴ②リースづくり】



【カッター活動】



【おもしろ自転車】



【遊びリンピック】



【非常食屋台村】

4. 成果・課題

(1) 満足度

前夜祭：満足60% やや満足：40%

本祭：満足85% やや満足：15%

(2) 参加者の声

- ① 前夜祭の絵本の読み聞かせは、創作活動もあり楽しかった。
- ② 自然に親しむ様々な活動があり良かった。
- ③ カッター活動は疲れたが、みんなで協力することの大切さが感じられた。

(3) 成果

- ① 前夜祭は、絵本専門士による読み聞かせの後、本のストーリーに沿ったワークショップ「ぼくのまちをつくろう」を行い、参加者が全員で創造の町を作り上げることができた。
- ② 他の社会教育団体等にも出展ブースを出してもらい連携を図ることができた。
- ③ 災害教育の観点から日本防災士機構岡山県支部に出展ブースを出してもらい様々な非常食を参加者が選び、実際に作ってみて試食をすることで、非常食のイメージを変えることができた。
- ④ 近隣の乗馬倶楽部と連携し施設内にポニー（馬）乗馬体験ができるようにしたことで、普段見ることがない大きな動物と触れ合う機会の提供ができた。

(4) 今後の課題

- ① 秋は県内でイベントが多いので、市街にある当施設の教育事業に来てもらうことがなかなか難しい。また、参加してくれた家族もすぐに利用しようと思っても、一時休館中なので受け入れることができないので開催時期を年度末にすることも検討したい。
- ② カッター体験活動時には参加者がブースから多く抜けるので、午前参加者、午後からの参加者を事前に把握できる申込み方法も検討することで参加者のバランスの取れた運営を行うことができる。
- ③ レストランとの食数の変更やアレルギー対応等労力を要するので、店長と相談しやり方を工夫することを考えたい。

担当：主任企画指導専門職 河本 潤